



2017年6月3日発行

No.41

早稲田大学本庄高等学院通信

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：吉田 茂 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 【URL】http://www.waseda-honjo.jp

「つつじ山」に学ぶ

学院長 吉田 茂



新入生三六名を含む一〇二〇名の学院生が二〇一七年度新学期を迎えた。それから早一月が経ち、学舎のある大久保山は萌黄色の若葉の季節だ。その中で一段と目を引くのは炎の如き真っ赤な躑躅、これを見ると、この山が昔地元の人から「つつじ山」と呼ばれた所以がよくわかる。

躑躅と言えば、万葉の歌人高橋虫麻呂の長歌を思い出す。それは、天平四(七三二)年西海道節度使として九州に下る藤原宇合(うまかい)に彼が贈った(前略)冬こもり春さりゆかば 飛ぶ鳥の 早く来まされ龍田道(たつたじ)の 岡辺の道に 紅躑躅(につつじ)の 匂はむ時の 桜花 咲きなむ時に 山たつの 迎へ参る出む 君が来まされの歌で、躑躅や山桜が咲き匂う春 宇合の無事の帰還を願ったものだ。

虫麻呂の歌から二十数年後、天平勝宝七(七五五)年大伴家持が採録した防人歌の中に「枕大刀(まくらたし)腰に取り佩(は)き真愛(まかな)しき背(せ)ろが巻(め)き来(こ)む月(つき)の 知らなく」の歌がある。「大刀をたし」「巻き来む」をめきこむ、「月」を「つき」と東国方言の交じるこの歌は、本庄市の隣町である美里町広木に当時館を構えた檜前舎人石前(ひのくま)のとねりいわさきの妻大伴部真足女おおもとのまたりめが詠んだ歌で、防人として九州北辺に下った夫を想い、帰郷時期のわからぬ不安を詠じたものだ。また、近くには東歌に詠まれた「曝井」の里がある。本庄市では昨年「ゆるキャラグランプリ」で第二位となった「はにぼん」のモデルである「盾持人物埴輪(笑う埴輪)」が小島前の山古墳から出土している。この大久保山には前山一号墳や東谷古墳を始めとする約一七〇基の古墳があるという。また、本庄市民が「マリィーゴルドの丘公園」と呼ぶ丘陵の北東から見つかった宍勝寺裏埴輪窯跡からは靱(ゆぎ)または「ゆき」、矢を入れて背負う道具「形埴輪」が出土した。さらに「平家物語」にあらわれる児玉党や猪俣党の武人たちの

出身地はこの地域だ。

これらのことからすれば、本庄市及びその周辺は昔も今も「鄙」の地ではあるが、古代の人々が住み続け、相応の歴史的・文化的土地であったことが想像される。それを再確認させることが、今年度開講された「大久保山学」の人文的役割だと勝手に考えている。そして同時に学院生が、本庄の地を、また本庄の地で過ごす三年間の学院生活を、早稲田大学に進学するための単なる通過点と限定して考えるのではなく、豊かな人生を生き抜く精神的支柱の一部をここで形成してほしいと強く願っている。

入学式辞で述べた通り、「教養」の定義は難しい。だが、複雑でしかも不安定な社会を生き抜くための人間の「教養」とは、体系的な知識や智慧を学ぶ過程で涵養されるものの見方や考え方でなく、他者や社会との関わりで獲得される規範意識や倫理性、さらにその人間を支える身体・力・精神の力をも含めた総体だと思ふ。この観点に立てば、大久保山は「教養」を身につける絶好の場である。教室における学びはもちろんだが、樹々の生い茂る山に分け入って、自己のこと、他者のこと、そして社会のことを熟考してほしい。時にはグラウンドでの運動だけではなく、クロスカントリーさながらに大久保山を走り回ってほしい。それを続ければ、心身ともに逞しくなれるだろう。

これも式辞で引用したのだが、保護者の皆様には「至孝子公孫丑上の「助長」という寓話を思い出してほしい。野菜の苗に過度な力添えをしようとそれが枯れてしまうように、過保護にお育てになるとお子様の力を削いでしまいかねない。だから、最近「体育の時間で、一五〇〇m走を無理強いしないでくれ」という要望があったようだが、これは過保護であろう。むしろ逆につつじ山を大いに走っておいで」と、お子様を送り出してほしいと思っている。



「保護者の会よりびび挨拶」

保護者の会 会長 清水 宏 祐



「緑風」をご覧のみなさま、日頃より本庄高等学院・保護者の会とその活動にご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

「保護者の会」について一体何をしているのですか？」

そんな声を聞くことが度々あり、今回の「緑風」では保護者の会について筆を取らせて頂きました。

本庄高等学院保護者の会、その活動の柱は「保護者と学院が緊密に協力し子供たちの成長の支援を行い、保護者同士のコミュニケーションを図ること」であり、各クラス保護者の方からの選出の幹事のみならず運営3委員会を構成しております。

- 学院と生徒の日常をお知らせする保護者の会会報「杜」を作成している杜編集委員会
- 稲穂祭で保護者のみなさまをお迎えし、また「卒業の集い」を企画運営する総合支援委員会
- 保護者の会のみなさんの相互理解や交流親睦を深める文化事業委員会となっており、無理のない範囲で楽しみながら「土日中心」での活動を行っております。

さて近頃、本庄高等学院や保護者の会の動きに、今までにない変化が起き始めています。

本庄早稲田駅の目の前に新しい生徒寮の建設が始まっているのはご存知でしょうか。こちらは女子生徒専用寮になると伺いました。国内はもとより世界各国からの女子生徒が今まで以上に本庄の地に集い、更なる活躍すること期待しています。

学院の変化といえば、現在の校舎近く、数年のうちに体育館が建設されるというお話も、伺っております。

変化は施設だけではなくあります。

今年の3月の卒業式は例年通り本庄文化会館で盛大に行われましたが、その後のホールムームは本庄文化会館で卒業式が行われて以来初の試みとして、学院校舎に戻って実施されました。

これに呼応し、保護者の会運営の「卒業の集い」も初の試みとして学院の食堂を利用し華やかに行われました。

これは将来的に学院内での卒業式とそれに続く一連の流れとなる模様です。

保護者の会主催行事の別の変化もあります。早稲田大学各学部を巡るキャンパスツアーがその一つです。

進学先の早稲田大学各学部を保護者のみなさまにもぜひ知って頂くとう、各学部の協力を得て、早稲田本部キャンパスを始めとして戸山・西早稲田・所沢の各キャンパスを巡り、教育内容や学生生活のお話を聞くイベントを開催して参りました。昨年度は延べ千人を超す本庄高等学院の保護者のみなさまにご参加頂きましたが、今年度からは在校生と共に参加する方式に変更となり、初夏と秋の全3回の開催で既に動き始めております。

親子で共通の説明を受けて頂き、大学の学業や生活の話などを各家庭で共有して頂くことで、大学に対する認識を一つにして頂ければと考えております。

稲穂祭への参加は、従来「保護者の会休憩所」として出展しておりましたが、今年度は内容を一新する計画です。保護者の会をより深く知って頂き、みなさまが交流親睦できる場の提供をと、総合支援委員会が準備を行っております。

保護者の会を通じてより多くのみなさま方に保護者間での交流親睦を深めて頂く為に、来年度春の開校を目標に保護者の会ホームページの準備を開始致しました。

時代の変化に適応し、時代の流れに即した行動を行うのは、次代を担う学院在校生だけのことではありません。

保護者のみなさまにも身近な「学院」や「保護者の会」といった部分でも少しずつ、しかし確実な変化が起きております。我々保護者世代も「次代の変化に適応し、時代の流れに即した行動を」実践する時が来ているのです。

本庄高等学院保護者の会はそうした変化に対して先んじて対応し活動してまいりますので保護者のみなさまの今まで以上のご理解・ご支援を、また、運営並びに各行事への積極的なご参加をお待ちしております。



本庄高等学院に勤める前のことである。私自身も学生時代にやり残した数学の続きをやりたいなと夢想しながら、なかなか実施できずにいた。時間が足りないことも一つの理由ではあったが、空き時間があっても本や論文が手元になく、グンナリすることが多かったのだ。職場でもカフェでも自宅でも同じ環境で数学ができればいいのにと思っていたところ、解像度の高くなった第四世代DPIが発売された。学校にある裁断機とスキャナは本を取り込むのに最適であり、とりあえず全ての数学の本をDPIに取り込んでみることにした。PDFファイルをOCR処理することで、本が検索可能、辞書も引けるようになった。証明の済んだ定理は黄色のマーカーを引き、まだ証明していないものは青色のマーカーを引く、のちに証明が済んだらワンクリックで黄色に変更する。行間が空いているところは書き込みをしてギャップを埋め、間違えたらすぐに消すことができる。各定理・定義等をブックマークしすぐに参照できる。持ち運びを手軽にするために行った電子化であったが、予想以上の利便性の向上であった。DPIを開けば前回中断した状態に戻ることができ、細切れ時間も連続的に使えるようになった。ここまで来るとノートもDPI上でどこにでも書けるかとも思い試行錯誤したが、自分にはDPIとノートが一番の環境だった。のちに自分の部屋にホワイトボードを買ったがこれも良いものであった。ノートに書くより視界が広く、立つて書くため目の前のことに集中できる。私は昔から調子の良さも悪さも長続きするタイプであり、状況が変化するのは環境が変わる時であった。習慣を変えることは難しく、継続的な努力が必要であるが、環境は短期集中的に変えることも可能である。私の最近の調子はあまりよくないが、これも転機だと思えば環境を整えていこうと思ふ。

スーパースーパーグローバルハイスクール(SGH)の取り組み

学んだ宝がここにある ―SGH Pre-WaISECでの協働学習報告―

2016年12月19日～22日に本学院で開催したPre-WaISEC (Waseda International Symposium on Education and Culture)は、SGH実施2年目の成果披露と還元のために企画された、小規模の高校生国際学会だ。SSHの長年の努力の結晶の1つWaISES (Waseda International Science and Engineering Symposium)の経験を生徒・教職員間で受け継ぎ、2018年の実施を公約しているWaISECの質を高めるべく、学校全体が経験を積むというのが2016年の「プレ大会」の目的である。この項では、Pre-WaISECに参加した生徒の学びの軌跡と成果をごく簡単に紹介したい。

◆大会テーマ

理系の知識や数学という「世界共通言語」を使う科学フェアとは異なり、いわゆる文系・学際系は学問領域による違いが大きいため、「学会」テーマを明確にした方がより濃密な討論が期待できる。しかし、まずは海外校も含むより多くの参加者に発表の機会を広げることが優先させ、テーマを『「三人寄れば文殊の知恵」』として、チームでの取り組みならではの考察を含めるよう依頼した。

◆研究発表(2日目)

以下は発表内容一覧である。原題は英語で、若干の補足を含む日本語訳は筆者による。

□ゲスト校 ＊国内校はすべてSGH指定校

立命館高校(京都)「立命館Super Global Forum 2016 ―協働学習の事例の報告と考察」

大阪教育大学附属高校平野校舎(大阪)＊2チーム

「グローバルな視点から問う生活(の質)―協働学習で得られた視野の広がり」

「大阪でのヘルスケア研究―感染症防止、院内教育、メンタルヘルスへの対応の3視点から」

早稲田大学高等学院(東京)「多文化共生社会を目指して―移民政策の有効性を問う」

北京大学附属中学(中国)「少数民族タイ族の伝統文化―探求型授業での協働学習の成果」

台北市立第一高級中学(台湾)「遠隔地の教員の転勤率の高さをめぐる考察」

安養外国語高校(韓国)「多様性を重視した教育をめぐる考察」

ハナ・アカデミー(韓国)「生徒による協働プロジェクトの力(鳥類保護プロジェクトの経験をもとに)」

□共同研究(安養外国語高校と本学院)

「日韓高校生共同フォーラム報告―日韓関係構築をめぐる考察」

□本学院

「沖縄の基地問題を考える一現地フィールドワーク報告」

「在華協会の研究―富岡製糸場と上海巡検からの考察」

「インバウンド観光振興の考察―シンガポールの事例より」

「インドネシア高校生との協働プロジェクト報告」

「フィリピン・ネグロス島での自然保護活動―イカオ・アコ主催のスタディーツアー報告」

「ネパールの少女人身売買について―ラリガラスジャパン主催のスタディーツアー報告」

「目指すべき『チーム』『リーダー』とは―ハナ・アカデミー国際フォーラム報告」

優れた発表例として北大附中の報告を挙げる。同校の発表は雲南省タイ族の文化保持をテーマにした探求型学習の紹介だ。伝統工芸品である土瓶と織物の商品化の是非についてリサーチと徹底した討論を行い、「伝統工芸品のブランド化は収入をもたらすが、商品化されることで伝統文化の形骸化も引き起こす」という多角的な視点が持たて、と、説得力ある構成で論じた。

◆「コラボレーション」(3、4日目)

会期後半のハイライトとして、参加生徒混成チーム間で観光振興のアイデアを競い合う「コラボレーション」を企画した。海外校、国内校、本学院生徒の7名からなるチームを6つ編成し、各チームが富岡製糸場・伊香保・川越のいずれかを視察する。夕方に戻って各地域の観光振興策をまとめ、翌日午前中に稲穂ホールで発表するといふものだ。生徒実行委員会は地理の高井寿文先生による地域調査方法の事前指導を経て、パンフレットに各地域の説明(魅力、課題、可能性)を掲載し、「コンペ班」がフィールドワークのルートを企画した。

富岡製糸場チームは、課題解決の視点を全般的・国内向け・海外向けの3点に分類して提示した。全般的な振興策として「絹祭り」の実施、絹織物作り体験、近隣名所のパッケージツアーが提案された。国内客向けにはシャトルバス便の推奨、海外に向けては外国語のガイドの強化が論じられ、ソウル・景福宮での実践例も紹介された。既存のSNSや旅行サイトへの投稿増加につなげる外国語での発信の必要性も語られた。

◆「宝」を使い、増やそう

Pre-WaISECを経験した有志生徒が今年の4月19日にSGH説明会を開き、70人近い生徒が参加した。学院生の皆さんの関心の高さを嬉しく思う。過去2年の実践で、Pre-WaISECの発表概要を始め、各プロジェクトのレポートや教員からのコメント集が蓄積されてきている。他のSGH指定校からも多彩な論文集が届いている。知見から大いに学び、ぜひ皆さん自身が「宝」をさらに磨き「宝」を伝える存在となっていくことを願っている。



Pre-WaISECを通して

Pre-WaISEC副実行委員長 3年F組 柴田 亮輔



2016年12月19日から22日の4日間、本学院において国際高校生学会Pre-WaISEC～Pre-International Symposium on Education and Culture～が実施されました。Two heads are better than one(三人寄れば文殊の知恵)というテーマのもと、四か国7校から生徒約30人、本学院からは発表者と実行委員合わせて約60人が参加しました。

“I could say with massive confidence that Pre-WaISEC was a huge success(私は、Pre-WaISECが大成功であったと、大きな自信をもって言えました)”――Pre-WaISECの閉会式のスピーチで私がこう言ったとき、会場である稲穂ホールに拍手喝采が起きました。まさに、参加者全員で、この国際高校生シンポジウムの成功を確信し、共有し合えた瞬間でした。最後のクロージングムービーでは、“We're all in this together”が流れ、参加者が一体となってPre-WaISECを締めくくりました。

閉会式を終えた時、達成感と感動がどっと私に押し寄せてきました。Pre-WaISECが成功するまでに経た道のりはとても長く、そして厳しいものでした。

一年生の時からずっとSGHに関わってきた私には、Pre-WaISECを必ず成功させたいという強い思いがありました。学院における文系国際シンポジウムの開催は初めての試みだったので、準備段階では様々な困難にぶち当たり、決して平坦な道ではありませんでした。英語でのパンフレットの作成や広報、コンペティションの設計、宿泊者数の調整など、細かな仕事も沢山ありました。何といっても、自分たちで仕事を見つけないところから始めることが特に難しかったように感じました。

前日まで準備を重ね、なんとか開催に踏み切ることが出来ました。

開会式では、グリープ・フォロワー・バンド部による歓迎演奏や学校紹介を行い、非常に盛り上がりました。続くディナーパーティーでは言語や文化の壁を越えて積極的に交流が行われ、幸先良くスタートを切ることが出来ました。



2日目の株式会社トリップスのCEO、石田言行さんによる基調講演「想いをカタチにする方法」～How to make your ideas a reality～では、「夢を叶えるために具体的にどのような行動をとれば良いのか」ということを学びました。このスピーチは、以後の研究発表やコンペティションに向けての良いブレインストーミングとなりました。その後はプレゼンテーションとポスターセッションの二つの形式での研究発表を行い、私も「ハナ高校国際高校生シンポジウム」の成果報告をしました。例えば、私は「リーダー・フォロワーの関係を生徒と先生の関係に応用できるか」という質問を受け、もっと実際に学んだことを他の例でも応用できるのかどうかを追及する必要があったように感じました。質疑応答でも活発に意見交換が行われ、非常に有意義な場となりました。

3日目には、地域振興策をチームで考えるコンペティションを行いました。各校混成の3チームに分かれて富岡製糸場、伊香保、川越の3ヶ所にフィールドワークに行きました。学院生があらかじめ行った下調べを基に参加者は行先で発表に向けて気づいたことをメモし、議論を重ねていましたが、コラボレーションのプレゼンテーションは一夜で作り上げたとは思えないほど素晴らしいクオリティで、まさにPre-WaISECのテーマである「三人寄れば文殊の知恵」が達成されたように感じられました。三ヶ所計六つの班はそれぞれ“How can we maintain large number of tourists of Tomioka(富岡に訪問する観光客数を維持するにはどうすれば良いか)”、“How to revive tourism in Ikaho(伊香保における観光をどう復興させるか)”、“How to revitalize Kawagoe(川越を地域活性化させるには)”という三つの問いに対する解決策を提示しました。例えば地域活性化のために地元の自治体と連携を取りながら観光機関を設ける、地域の特産品にちなんで、マスコットキャラクターを自作するなどといった画期的な案が多く出ました。フィールドワーク先で得た知識をもとに生徒一人ひとりが自分の意見を出し合い、様々な観点から一つの問題に対する理解を深めた参加者は、まさにパートナーシップで結ばれていました。

他にも、茶道部のお茶会や交流ゲーム、ミニ文化発表が行われました。宿泊施設では、参加者がお互いの国についてのディスカッションやカードゲームをし、とても有意義な交流が出来ました。

Pre-WaISECを通して、私は「新しいことを始めることの難しさ」「パートナーシップの大切さ」を学ぶと同時に、人生において最高の経験となりました。ノウハウが無いことを一から始めるのは大変でしたが、その分達成感と感動は非常に大きいものでした。参加者に「楽しかった」「とても良い経験になった」と言ってもらえたことが、何よりも嬉しかったです。参加者、スタッフ、先生方をはじめ、関わって頂いた皆さん、本当にありがとうございました。

2018年度のWaISECに向け、今年度も多くのSGHプロジェクトが始動しています。学院生は、ぜひSGHプロジェクトに参加してみてください！きっと素敵な経験が待っていることでしょう。

ポルトガルでの研究と感想

理科(化学) 上野 幸彦



ヨーロッパで、「人気と身近な理科」、「教員のパートナーシップを重視」、を旗印とするPARSELと呼ばれるプロジェクトがある。この主要なメンバーでリスボン大学の教授のもとで研究をした。日本の指導要領や教育方法との大きな違いは、教員が授業の計画を立てる時に、その方針や理念にプロジェクトが言及することは無く、授業のための身近な授業資源を提供するという点である。あくまでも授業計画の立案には授業実施者の考えが反映され、受ける側の学生の要求を基本に授業計画を立てることも常に意識されている。「身近」という言葉の意味が日本におけるものとは異なる。「理科離れ」とは理科の方が市民生活から離れて行ったのかも知れない。

リスボン大学に着いてすぐに20コマ、40時間のポルトガルポルトガル語(ブラジルポルトガルとは異なる)の授業を受けることになった。初めはなんとか授業についていったものの途中から全く理解不可能になってしまった。大学の授業ではポルトガル語を学び、研究では英語で文章を書くというのが、なんとも苦しくポルトガル語の授業のある日には大学に通うことが憂鬱であった。若い頃にラテン系の言葉を少しでも学んでおけば良かったとつくづく思った。しかし、形だけでもラテン系の言葉を学ぶことができ、ラテン語の奥深さ、重要性を肌で感じる事ができた。英語の単語の多くがラテン語起源でありながら、なぜかアメリカ英語はラテン語を避けているように感じる。日本の高校生は、例外的に多い英語文法よりも、ラテン語の構造を重視して英語の単語を勉強するのはどうか。

ポルトガルは、過去にはモーロ人などイスラム文化の地であったが、キリスト教に攻められモーロ人はアフリカに逃げた。ポルトガルには、アズレージョという独特なタイルや、イスラムの建設した施設がそのまま残された。当時のイスラムの高い建造技術が基になっている。また、ポルトガルの人種は様々である。昔は奴隷貿易の拠点であり、マカオやブラジルなどを植民地とした国であるので、いろいろな肌の色の人々が混ざり合って生活している。カナダにおける棲み分けとは異なり、人種間の壁はあまりない。義務教育も受けずに馬車に乗って生活し、数も数えられないロマと呼ばれる人々もいる。ポルトガルはこのような人々も平穏に暮らすことのできる社会である。規則は守らないこともしばしばある。例えば、歩行者は交通ルールを守らない。横断歩道は赤でも渡る。日本に比べていい加減なことは山ほどある。しかし、彼らの基本は「人間第一」という暗黙のルールがあり、全てにおいてこれが優先する。

ポルトガルを一言で表すなら、「貧しいが平和的な国」である。リスボンやポルトは都会であるが、スペイン国境のモンサラシエ、ユーラシア大陸最西端のルピナスでいっぱいラゴシニョなど魅力的な土地も多い。効率を後回しにしても、いろいろな人種、年齢、階層の人々が平和に暮らせるようになっていく。街中にはオレンジ、オリブ、アーモンドが実つていて、腹が空いたら食べられないことも無い。ベソア、サラマーゴなどの詩人を愛し、尊敬する人々。そんな地域であるので、お金はなくても暮らせるし、アフリカを含めた周辺諸国から人が集まり還流するのである。日本人はポルトガルの「いい加減さ」には負ける。

SSH事業報告(2016年12月～2017年3月)

1. 藤田小学校との連携(第6回講義12/7、第7回 講義2/1、第8回講義2/8)

12月7日は前半「循環小数の秘密」、後半「表面張力の不思議」を実施しました。2月1日8日は、3月11日の市民シンポジウムの発表を目指し、エレベータープレゼンテーションやレディメイドプレゼンテーションを通してプレゼンテーションスキルの練習をしました。

2. 台湾研修(12月21日～24日)

立命館高校科学技術人材育成重点枠プロジェクト連携校の1つとして台湾高雄高級中学・高級女子中学と共同研究を進め、成果発表を行いました。参加者は3年市川実花・百瀬匠真です。



3. Thailand International Science Fair 2017 (1月5日～10日)

タイのMahidol Wittayanusorn School(MWITS)を会場として、第1回目のTISFが開催されました。この科学フェアは世界最大規模です。3年稲葉智沙貴・石原みらい・市川実花が参加しました。特筆すべきは、Maha Chakri Sirindhorn王女様の前でポスターセッションを行うことができたことです。



4. SSH特別講座「麹の秘密」(1月21日(土))

昨年実施して好評だった、SSH特別講座「麹の秘密」を今年度も本庄市中沢商店様のご協力で開催しました。

5. タイ研修(1月24日～31日)

タイのMahidol Wittayanusorn School(MWITS)との相互定期交流プログラムを行いました。3年清水理愛・鈴木未来乃・宮下桃香・荻野心・秋吉百花・矢戸美紅、2年武樋一樹・飯塚健斗・小川いぶきが参加しました。



6. 河川調査班の活動が、平成28年度彩の国埼玉環境大賞を受賞しました！(2月6日(月))

2012年度から継続されている本庄市立藤田小学校と本学院河川研究班、NPO法人川・まち・人プロデュースによる本庄市内河川の環境保全活動が評価され、優秀賞を受賞しました。2016年度河川研究班メンバーは卒業生の荻野結衣・垣鍔結衣・玉手萌衣・久保田怜奈・畑蘭乃・高崎航平、3年杵掛理美・小泉悠登・清水理愛・鈴木未来乃、2年熊谷琴葉・中村華英です。

7. 川のシンポジウム(3月11日(土) 於本庄国際リサーチパーク)

このシンポジウムは、本庄市内河川環境の状況を市民に訴えることを目的として開催されているものです。この日のテーマは「元小山川を取り巻く環境について」で、河川研究班も2本研究発表を行いました。吉田信解市長も駆けつけてくださいました。

8. 第12回川の日ワークショップ関東大会(3月18日(土)於成城ホール)

この大会は、関東の河川環境保護活動をしている人々が年齢を問わず集まり、その実践を発表するものです。3年鈴木未来乃・清水理愛、2年熊谷琴葉・中村華英が研究発表を行い、審査員・参加者の投票とも一位で優秀賞を獲得しました。



9. 日本水産学会春季大会(3月28日(火) 於東京海洋大学)

日本水産学会の高校生による研究発表部門で2年熊谷琴葉・中村華英が研究発表を行いました。



生徒達の活躍

◆ソフトテニス部

関東大会 埼玉県予選会北部地区予選・男子個人戦(4月24・26日)

宮下皓志(2F)・小池隼弥(3B)ペア 準優勝
田中尚史(3D)・兼田崇裕(3H)ペア ベスト8

関東大会 埼玉県予選会(男女個人戦)5月4日(祝)

辰巳穂乃実(3H)・飯塚優夏(2H)ペア
女子個人戦ベスト16
宮下皓志・小池隼弥ペア 男子個人戦ベスト20
田中尚史・兼田崇裕ペア 同 2回戦敗退

※これにより、辰巳・飯塚ペア、宮下・小池ペアは6月に山梨県甲府市で行われる関東高校ソフトテニス選手権大会に出場します。

関東大会 埼玉県予選会(団体戦)5月6日・10日

男子 ベスト8
(2回戦③―0 飯能南、3回戦②―0 草加西、4回戦②―0 浦和、5回戦0―②川口総合)

女子 ベスト3 2
(2回戦③―0 新座柳瀬、3回戦0―②川口総合)



◆硬式テニス部

1. 関東予選北部地区予選(4月14日～16日)、県大会出場分

男子シングルス 村松海斗 7位、津田陸希 8位、小川航平 9位、原龍成 17位、武樋一樹 22位

男子ダブルス 津田・小川 10位

女子シングルス 森川優希 優勝、室伏奏旅 準優勝、齋藤ひろ 3位、田中紗貴 4位、山村明日美 9位、杉本沙弥 12位、田村鞠乃 16位、高橋栞 19位

女子ダブルス 森川・室伏 優勝、齋藤・田中 準優勝、山村・川口優衣 5位

2. 関東予選埼玉県大会

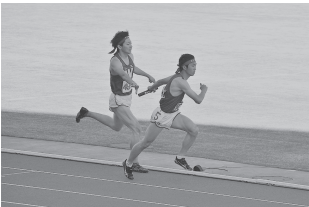
女子シングルス ベスト3 2 森川、ベスト6 4 室伏・齋藤

女子ダブルス ベスト1 6 森川・室伏、ベスト3 2 山村・川口

◆陸上部 19年ぶり県北トラック優勝

4/21～23に行われた埼玉県北部総体において、陸上部の選手が様々な種目に出場し、多くのものが入賞、県大会に駒を進めました。また入賞を逃した選手も、自己ベスト、ケガからの復帰等、これまでの練習の成果を感じ取っていました。

特筆すべきは12年ぶりに男子チームが北部地区トラック種目(合計)において優勝を果たしたことです。個々人の競技力に加えて、本庄高等学院陸上部のチーム全体の力による成果でしょう。競技場全体に分散してチームメイトを応援する部員達の姿は他校には見られない光景です。続く県大会(5/12～15)もチーム一丸となって臨みます。



男子

100m 1位 河原 啓志(3) 11"30
200m 5位 守谷 光永(2) 23"11
400m 1位 大畑 遼恭(2) 50"04
3位 関 宏太(3) 52"09
5位 山崎 光(3) 52"88
800m 8位 関 宏太(3) 2'06"10
5000m 4位 狩野 佑介(3) 15'38"76
400mH 1位 松久保 大智(3) 57"11
6位 下山 健太(2) 1'01"32
3000m障害 4位の場 寛人(3) 10'08"06
4x100mR 1位 早大本庄(守谷 光永(2) 難波 拓斗(2) 小前 健人(3) 河原 啓志(3)) 42"54
4x400mR 1位 早大本庄(河原 啓志(3) 後藤 大輝(3) 山崎 光(3) 大畑 遼恭(2)) 3'26"40
走高跳 2位 伊藤 陸(3) 1m80
棒高跳 1位 関 亮哉(1) 3m80
走幅跳 7位 堀切 王貴(1) 6m17(+0.8)
男子総合 4位 早大本庄(トラック1位 フィールド6位)

女子

400m 6位 新橋 葵(3) 1'03"28
800m 4位 新橋 葵(3) 1'03"28
100mH 4位 足立 涼子(2) 15"88
400mH 3位 木下 真緒(2) 1'08"20
6位 高橋 佑瑠(2) 1'11"02

4x100mR 4位 早大本庄(鈴木 友梨(3) 上野 真琴(2) 足立 涼子(2) 木下 真緒(2)) 50"54
4x400mR 4位 早大本庄(新橋 葵(3) 木下 真緒(2) 高橋 佑瑠(2) 高原 歩希(3)) 4'12"59
走幅跳 1位 上野 真琴(2) 5m39
やり投げ 4位 木下 真緒(2) 30m10
七種競技 4位 新橋 葵(3) 3252点
5位 加藤 友子(3) 3106点
女子総合 4位 早大本庄(トラック4位 フィールド7位)

◆ラグビー部

新人戦県北大大会

準決勝 12月24日(土)
早大本庄 31-14 松山

決 勝 1月8日(日)
正智深谷 31-0 早大本庄

新人県大会

1回戦 1月15日(日)
川越東 26-0 早大本庄

関東大会県予選

1回戦 4月16日(日)
正智深谷 57-0 早大本庄

◇今季のチームは昨季に比べるとやや小振りではありますが、勢いのある選手が多いのでこれからの伸びしろに期待大です。関東大会予選では強豪正智に完敗してしまいました。結果は謙虚に受けとめ、秋の全国大会予選での優勝目指して頑張りたいと思います。1年生諸君、ラグビーは本当に素晴らしいスポーツです!!ラグビー部はいつでも入部OKですので、少しでも興味のある人は是非グラウンドへ見学に来て下さい!!

◆卓球部

大会名 平成28年度 卓球新人戦北部支部予選

日 時 平成29年1月24日(月)・25日(水)・27日(金)

場 所 くまがやドーム体育館

種 目 男子シングルス 優勝 池田祐将(1 C)
男子ダブルス 準優勝 青木真誉(2 E)・池田祐将(1 C)
男子学校対抗 準優勝

大会名 平成29年度

卓球関東大会北部支部予選

日 時 平成29年4月24日(月)・25日(火)・28日(金)

場 所 くまがやドーム体育館

種 目 男子ダブルス 準優勝 青木真誉(3 E) 池田祐将(2 A)
男子学校対抗 準優勝

◇囲碁将棋部

囲碁「3年H組宮内康太郎 4月30日 高文連囲碁新人大会3位」

将棋「2年A組阿南美穂 4月30日 女子個人戦3位、2年A組笠原大知 全国高等学校将棋選手権男子個人戦6位」

将棋「5月7日、8日 全国高等学校将棋選手権団体戦 優勝 3年H組江口幸寛、2年D組尾崎優介、2年A組笠原大知(この3名は8月の全国大会に出場予定)、全国高等学校将棋選手権団体戦 8位 1年C組山越功貴、1年G組桜井章宏、1年H組長谷部颯汰」

◇茶道部

茶道の精神はお客様を心を込めておもてなしすることですが、その中には書画・工芸・建築・思想等日本文化が総合されています。日々の活動を通して茶道部員は日本の文化に理解を深めています。2016年12月以降、以下の活動を行いました。

- 美術の中村先生ご指導の元、お茶碗づくりをしました。(2月6日、4月6日)
- 瀾口のあるお茶室でお雛様お茶会を行いました。(2月4日)
- 3年生の進学を祝う、卒業お茶会を開催しました。(2月4日)
- 1年間の茶事の始まりのお初釜を行いました。(1月18日)
- SGH事業のPre-WaiSECで海外のお客様の歓迎お茶会を開催しました。(12月20日)

また、現在2007年の「稲穂」、2015年の「わせだうさぎ」のあとの、早稲田本庄茶道部オリジナルお菓子のコンペを実施しています。近いうちに新しいお菓子をご披露できるものと思います。

年数回、中央階段で部員のお稽古を兼ねて呈茶を実施します。お気軽にお立ち寄りください。

◇ESS

日 時：2016年6月19日(日)

大会名：第五回HPDU新緑杯高校生英語パラメンタリーディベート大会

入賞者：高岡美優(3H) 個人ディベーター賞 10位内入賞



2017 年度 生徒定期健康診断結果速報

(1) 三測平均値

		身長(cm)		体重(kg)	
		学院平均	全国平均	学院平均	全国平均
男子	1年生	169.9	168.3	60.3	58.7
	2年生	170.8	169.9	60.4	60.5
	3年生	170.9	170.7	62.4	62.5
女子	1年生	158.9	157.1	50.1	51.7
	2年生	158.5	157.5	51.5	52.6
	3年生	159.3	157.8	51.4	52.9

※全国平均は平成 28 年度学校保健統計調査速報による

(2) 疾病・異常被患率等

受診者数:1 年 339 名、2 年 337 名、3 年 343 名 合計 1019 名											
	視 力※		聴 力		尿検査		心電図		胸部X線		
	C 以下	被患率	要精査	被患率	要精査	被患率	要精査	被患率	要精査	被患率	
1 年生	85	25.1	2	0.6	5	1.5	7	2.1	0	0	
2 年生	48	14.2	—	—	1	0.3	—	—	—	—	
3 年生	40	11.7	8	2.3	1	0.3	—	—	—	—	
合 計	173	17.0	10	1.5	7	0.7	7	2.1	0	0	

	内科		耳鼻咽喉科		眼科		歯科	
	要精査	被患率	要受診	被患率	要受診	被患率	要受診	被患率
1 年生	0	0	15	4.4	4	1.2	81	23.9
2 年生	1	0.3	20	5.9	10	3.0	94	27.9
3 年生	0	0	7	2.0	6	1.7	87	25.4
合 計	1	0.1	42	4.1	20	1.9	262	25.7

※視力C 以下…裸眼又は矯正視力が 0. 7 未満の者

※要精査・要受診等の項目は該当者数、被患率は% (小数点第 2 位以下を四捨五入)